

東通原子力発電所温排水影響調査

海洋生物調査：イカナゴ (要約)

高橋 進吾

目 的

東北電力東通原子力発電所の温排水が周辺海域の主要魚種であるイカナゴに与える影響を把握する。

材料と方法

1. 漁獲動向調査

白糠、泊両漁協におけるイカナゴ漁獲量を調査した。

2. 標本船調査

平成 21 年 4～6 月に東通村左京沼から六ヶ所村棚沢川までのイカナゴ操業海域を南北方向に 10 区分し、この海域における白糠及び泊漁協の所属船延べ 8 隻の操業データから漁場形成状況を調査した。

3. 稚仔魚分布調査

平成 21 年 2 月、3 月、5 月に各月 1 回、東通村尻労から六ヶ所村棚沢川までの水深約 50～100m の 10 地点において、試験船「開運丸」でボンゴネット往復傾斜曳を行い、稚仔魚の分布密度を調査した。

結果と考察

1. 漁獲動向調査

平成 21 年の白糠、泊両漁協の合計漁獲量は 294 トンで、昭和 56 年以降の平均漁獲量 (248 トン) の 119% であった。

2. 標本船調査

標本船調査の結果を基に解析した結果、10 海域の中でタカ磯地先海域での漁獲が最も多かった。

3. 稚仔魚分布調査

平成 21 年におけるイカナゴ稚仔魚分布密度は、平均で 7 個体/100 m³ (平成 20 年は 12 個体/100 m³) であった。